

平成23年度 施策達成度評価シート (平成22年度実績評価)

施策の柱		施策	
コード	名称	コード	名称
7	快適な都市機能	76	健全な水環境・良好な水循環の創出

施策主管部	上下水道局	評価者(施策統括マネージャー)名	武田 路可
-------	-------	------------------	-------

1 施策の目的(目指す姿)

対象 (誰を、何を対象としているのか)	意図 (この施策により対象をどのように変えるのか)
水環境施設(污水処理施設・雨水排水施設) 市民	衛生的で安全な水環境が確保される

2 達成度

(1) 成果指標

指標名	単位	指標の性格	H21実績値	H22年度計画 (年度目標値)	H22実績値	H23計画 (年度目標値)	H26計画 (最終目標値)
污水処理人口普及率(処理区域内人口/行政区域内人口)	%	↗	94.60	95.40	95.10	95.40	96.10
下水道雨水施設整備率(整備面積/雨水認可面積)	%	↗	59.20	59.30	59.70	59.80	60.80

(2) 近隣自治体との成果水準比較

指標名	他自治体の状況等
污水処理人口普及率(処理区域内人口/行政区域内人口)	青森市82.3%, 秋田市89.5%, 山形市96.8%, 仙台市99.4%, 福島市79.5%, 郡山市86.2%
下水道雨水施設整備率(整備面積/雨水認可面積)	青森市55.4%, 秋田市46.3%, 山形市23.6%, 仙台市56.0%, 福島市48.3%, 郡山市32.4%

3 達成度評価結果

取組内容と成果, 成果を得られた要因	施設整備については、事業効果、緊急度等を勘案しながら整備を実施したことにより、污水処理人口普及率では目標を下回ったものの、雨水施設整備率では目標を超える成果が得られた。 また、使用料の改定や全般的な経費の削減に努めたことにより、使用料回収率についても目標を超える成果が得られた。
翌年度以降の課題, その要因	現在の財政事情では下水道整備費の抑制傾向は必至であるが、合流式下水道改善事業、改築・更新事業等を行いながら整備を進めていかなければならないことや、未処理地区の整備は整備済み地区に比べ効率性や費用対効果が相対的に劣ること等から、今後は污水処理人口普及率、雨水施設整備率とも成果の伸び率が鈍ることが懸念される。 なお、下水道事業全般について、さらなる経費の節減や収入の安定確保(使用料の適正な賦課等)に取り組むなど、経営の健全化に一層努める必要がある。





